

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270101169		
法人名	日本海観光株式会社		
事業所名	グループホーム敬愛苑 Bユニット		
所在地	島根県松江市寺町198-57		
自己評価作成日	平成27年11月25日	評価結果市町村受理日	平成28年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 x.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=327

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成27年12月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ビルの4階にホームがあります。同フロアには人口庭園があったり、市内や宍道湖が一望できるフロアもあり、利用者様は慣れ親しんだ宍道湖や市内の風景を観ながら、自由に散歩をしていただいています。また外出行事も充実させていて、各利用者様のペースに合わせた計画をしてお出かけいただき、安心して生き生きと過ごせる雰囲気づくりをしております。地域の町内会や公民館行事にも利用していただけるように、4階フロアにある会議室やコミュニティルームなども提供して、地域との交流も積極的に行い、基本理念である「人と人、心の和を大切に」をスタッフ全員で実践できるよう、日々努力しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム敬愛苑 Aユニット に記載しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は開設時より変わっていない。ユニット内や玄関、エレベーター入口付近に掲示している。研修時などに話し合い、日々のケアの中心になることを意識して実践できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事を縮小して苑庭でやっていただいたり、近くのお店まで利用者と一緒に買い物に出かけたりしている。また地域のボランティアの方に来ていただき、触れ合う機会をもっている。防災時は地域住民の一時避難場所になっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の町内会や研修等に空スペースを開放したり、利用者の中に近隣から入居されている方もおられるため、見学や面会にもきていただき、認知症ケアの啓発に努めている。また「まちゼミ」も参加して、希望者に受講していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの状況や日々の活動、行事報告と事故の内容、その後の取り組みなども報告し、参加者から質疑、意見、要望等も聞いている。意見交換時には、制度改正の説明や敬愛苑の防災について専門スタッフより説明を受けたりしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは連絡を密に取っているわけではないが、利用者についての相談や問題、制度についての疑問などの解決には日々対応してもらっている。運営推進会議でも意見や助言ももらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部、内部でも研修にはできる限り参加し、拘束を行わないという姿勢を持って取り組んでいる。見守りを徹底しながら支援し、職員同士お互いに注意し合っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修にはできる限り参加して、その後内部研修をして何が虐待行為になるのかを認識できるように努めている。また職員同士相手の立場にたって考えることができるようお互い注意しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の利用者様は現在はおられないが、外部研修に出かけたり、内部でも研修を行い、入居されてきたときのために日頃より学んでおきたいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所のケアに対する考え方や取り組み、対応可能な範囲について説明し、同意を得ている。改正時にも同じく理解、納得してもらって同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来苑時には必ず声をかけて利用者の状況を説明して、要望等を出しやすい雰囲気作りに努めている。出された意見や思いはミーティング等で話し合い、お互い納得いく関係作りをしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者は日頃から職員と話しやすい関係作りに努めている。また会議や面談でも意見として聞き、説得ではなく、お互い納得して話し合いのできる雰囲気作りをしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況は現場に出て把握している。職員の業務の悩みや人間関係などについても、話しやすい関係作りをしている。休憩時間や場所、休日の確保などにも配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症の理解を含め、経験年数などに応じた外部研修の機会や社内研修を計画し、技術やチームワーク向上に努力している。また資格取得のための勤務体制の協力、事業所からの助成金なども出している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会や研修には積極的に参加して、交流の機会を作っている。他グループホームや特養からの見学や研修生も受け入れていて、機会があれば、こちらからも見学や研修に出かけ、ホームの業務に反映されるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困っていること、不安に思うことはないか耳を傾け、何かあればいつでも、どのスタッフにでも良いから伝えてくださるようお願いしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていること、不安に思うことはないか耳を傾け、関係作りに努めている。 自身が信頼していただけるような言葉遣い、所作に留意している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ユニットリーダーと居室担当が話し合い、それをユニット会議で出し、皆の意見をもらい、見極めを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフ会議等で利用者様に行っていただけ役割について話し合い、掃除や調理、その他レク活動等を通じて関係を築く努力をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者家族の面会も多く、また何か問題がある時には、電話にて確認を取っている。月に一度は、写真付きの近況報告等も行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている。利用者の中には、以前住んでおられた町内会長が訪ねてこられることもあり。また外出のレクリエーション等で馴染みの場所を訪れることもある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り声をかけたり、新しく入居された利用者様がおられたりする場合は、様子を見て席替えや机の配置等も変えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ入所や入院となった場合は、お見舞いや面会に行っている。その際には、写真付きの色紙を渡している。家族から相談などがあれば応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の様子や会話から、本人の気持ちや思いを把握するようにしている。意思疎通が困難な場合や表情や行動をよく見て、家族から本人の思いを確認している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のアセスメントの際に、自宅や施設等で本人と面接を行い、家族、ケアマネから日々の様子を聞き、援助方針を決めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送りなどから利用者の状態を把握し、スタッフ同士で情報を共有しながら日々過ごしてもらっている。心身状態が落ち着かない時は、本人の思いに向き合い、寄り添うようにしている。また、その背景にあるものを探り、スタッフと話し合うことでケアの方針を決めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会の際に、日々の様子をお伝えし、家族の思いや要望を確認している。また、医師や看護師と本人の情報を共有し、スタッフ会議やミーティングを通してケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の変化や様子を記録し、気になることがあればすぐにスタッフ同士で話し合い対応したり、スタッフ会議にて検討している。検討内容については、連絡ノートを活用や業務日誌に記録し、統一したケアが行われるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者との関わりの中から行事やレクを計画し、本人の希望に添えるようにしている。また、外部からのボランティアも受け入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のイベントや祭りの情報を積極的に収集したり、公民館などのボランティア活動を受け入れて、地域の方とふれあえる時間を多く持ちながら、利用者の生活が豊かなものになるよう支援している。また推進会議等で行政との連携も行う。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護師と協力し、医師との情報交換を密に取りながら、利用者に適切な医療が受けられるように取り組んでいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、介護職及び看護職による健康チェックを行い、双方で利用者様の体調や健康状態を共有し、特変があれば看護職や医師との連携を図りながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された際は、日々の様子や発病時の様子を病院に伝え、退院後には施設内での生活がスムーズに行えるように病院関係者との情報交換を行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、当施設での介護が困難である旨を家族様に伝え、退所が必要な状況であれば、今後の方針も含め十分に説明しながら支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアル、緊急時対応マニュアルを作成し、職場のわかり易い場所に置き、常に対応できるようにしている。またAEDを使つての実践研修、看護職による勉強会などを行い、緊急時に備える。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に1回消防署の協力を得て、利用者様を交えての避難訓練を行ったり、社内の防災部署の指導を全職員が受け、利用者様が安全にいち早く避難できる方法を24時間体制で身に付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格や気持ちを尊重した話しかけや支援を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望などの話を傾聴し、できる限り思いに添えるように支援している。場合によっては、スタッフが選択肢を提示して、自己決定ができるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調を観察しながら、本人の意志を確認してから、本人の経験を生かせることをしていただいたり、好きなことをできるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを把握し、整容の乱れがないように気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に菓子作り、食事の下ごしらえや盛り付けをしていただいている。好みの盛り付けや食材の形状にし、食べていただけるような声かけをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を把握し、不足がないように定時外摂取、食べやすい盛り付け、食材の形状、食器などに気を配っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声かけをし、本人ができないところは介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗やおむつの使用を少なくし、一人ひとりに合った排泄の時間習慣を活かし、トイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や影響を把握して、食事の工夫や日々の散歩等、一人ひとりに合った予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の体調観察や会話をし、入浴が楽しめるように希望や時間帯を聞いたり、その方に合った支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの行動、生活習慣等その時々に合わせて、休息したり、穏やかに気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確認の重複を日常化し、誤薬のないように努める。頓服薬の使用が発生した場合は、十分に検討して対応する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の性格、生活歴等に配慮した手伝い、作業への参加の声かけをしている。気力、能力が保て、メリハリのある時間が過ごせるようスタッフで案を出し合っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望を訴える方が少ないので、季節、行事等に応じた外出計画を立てて、数回に分けて全員参加を実行している。苑外での家族との面会外出、付き添いにも協力し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に事務所でお金を管理させていただいている。可能な限り自分で管理されている方もおられ、外出したときなどに使う等している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいという希望があれば、職員が支援してかけてもらっている。手紙については、届いたときに手渡して、必要なら職員が読むなどの支援もしたり、出したいときには一緒にポストに行ったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの居室には、馴染みのあるものを置いたり、写真を飾ったり、いろいろな工夫をしている。またリビングにも季節ごとに作品を皆で作って飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が快適に過ごせるように、四季を感じられる居場所作りをしたり、苑庭やラウンジにはベンチやソファを置いて、一人になれる居場所作りもしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族とも相談しながら、写真、家具等のレイアウトにも配慮し、自宅のように過ごせる環境作りを行っていて、面会時にも居心地よく過ごしていただけるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スタッフ同士が話し合い、利用者の日々の変化にも対応できる、安全で快適な暮らしができるようにしている。		